

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(5月8日～5月14日)

2023年6月2日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領の体調不良(5月5日～)

●ムルウィラ・ジンバブエ高等教育・革新・科学・技術大臣一行の来訪(5月8日～18日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●体調不良

- ・5月5日の褒賞授与式において、ルカシェンコ大統領はしわがれた声で挨拶。
 - ・5月9日午前にモスクワで行われたソ連の対独戦勝78年記念行事に出席。軍事パレード後の献花に際し、ルカシェンコ大統領のみ車両で移動。その後の独立国家共同体(CIS)首脳との昼食会も欠席。
 - ・5月9日19:00にミンスクで行われた戦勝記念の献花行事に出席するも、一切発言せず。
 - ・5月13日19:00、大統領専用車が大統領官房共和国臨床医療センターに到着。2時間停車後に出発。
 - ・同日21:20、大統領専用車がミンスク郊外のオストロシツキー・ゴロドクに到着。
- (5月5日～13日 大統領府、国営TV「ベラルーシ第1チャンネル」、国営ベルタ通信、「ゼルカロ(鏡)」、「ドイチェ・ヴェレ」、「ユーロラジオ」、「MotolkoHelp」)

【外交】

●ムルウィラ・ジンバブエ高等教育・革新・科学・技術大臣一行の来訪(5月8日～18日)

- (1)教育省訪問(5月10日)
- ・ムルウィラ大臣は、イヴァネツ教育大臣と会談。
 - ・「2023年から2025年の高等教育及び大学の学術分野における協力プログラム」に署名。
- (2)農業食糧省訪問(5月10日)
- ・ハリタス・ジンバブエ土地・農業・水・気候・地方定住副大臣は、ザヤツ副首相と会談。
- (3)外務省訪問(5月12日)
- ・ムルウィラ大臣は、アレニク外務大臣と会談。
- (4)ベラルーシ国立科学アカデミー訪問(5月13日)
- ・ムルウィラ大臣は、チジク・ベラルーシ国立科学アカ

デミー第一副総裁と会談。

(4)その他施設等への訪問(5月12日)

- ・一行は、「エコ・テクノパーク・ヴォルマ」の環境・エネルギー・省エネルギー分野のセンター、「ミンスク国立自動車工学単科大学」等、「共和国職業教育専門学校」傘下の複数の施設を訪問。
- ・「共和国職業教育専門学校」とジンバブエの複数の教育機関の間の相互理解に関する覚書に署名。
- ・5月15日、ムルウィラ大臣一行はブレスト技術大学を訪問。同大学とジンバブエの5つの大学の間の協定に署名。

(5月10日～15日 外務省、教育省、ベルタ通信)

●欧州議会はベラルーシ当局に対し、ババリコ元大統領候補ら政治犯への虐待を止めるよう呼びかけ

(5月11日 欧州議会、BPN、「ゼルカロ(鏡)」)

●欧州安全保障協力機構(OSCE)は、ベラルーシにおける人権侵害に関する「モスクワ・メカニズム」報告書を提出

- ・ベラルーシ当局に対し、政治犯の釈放、死刑執行猶予の導入、国内法の緩和、弁護士や独立系メディア・団体に対する迫害の停止、国際機関との協力再開、自国領から他国に対する軍事的侵略の排除という憲法18条第2項の確実な遵守等を提言。
- ・OSCEベラルーシ政府代表部は、同報告書は政治的な動機による偏見に満ちたもので、法的に取るに足らないものとして反発。

(5月11日 OSCE民主制度・人権事務所(ODIHR)、BPN、「ゼルカロ(鏡)」)

●キプロスとマルタは、「ゴールデン・パスポート」制度を利用したベラルーシ人・ロシア人のうち、欧州連合(EU)の制裁対象となっている45人の資格を剥奪

・同制度は、一定額以上の投資と引き換えに国籍を付与するもの。

・ロシアによるウクライナ侵略戦争開始後、欧州委員会はEU加盟各国に対し、同制度が資金洗浄や汚職等に関連してEU市民に深刻なリスクを創り出すとして、同制度の停止を呼びかけ。キプロスとブルガリアは同制度を停止し、マルタはベラルーシ人・ロシア人を対象から外していた。

(5月12日「ゼルカロ(鏡)」)

【内政】

●国旗・国章・国歌の日の記念式典の開催

・ルカシェンコ大統領は出席せず、ゴロフチェンコ首相が大統領の挨拶を代読。

(5月14日 国営ベルタ通信、BPN、「ゼルカロ(鏡)」)

●5月12日現在の政治犯の数は1,483人

(5月12日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【治安・軍事】

●対独戦勝記念日の行事

(1) ミンスク市内の勝利広場での献花行事におけるフレンイン国防大臣の挨拶

・今日、西側の文明と東スラヴの文明との間の世界的な軍事的対立が勃発している。あらゆる戦線で武力衝突が繰り広げられており、西側がウクライナ人の手を使って自らの利益のために、世界に自らの秩序をさらに確立する可能性のために戦う、大規模な代理戦争が行われている。

・ベラルーシ軍には、ベラルーシ国家の聖なる境界線を侵そうと試みる者全てに対して反撃する用意がある。我々は、何者もベラルーシ人に対して、我々が自分たちの土地でどのように生活するかについて指図できないようにするため、全てのことをするつもりである。

(2) 各州での祝賀行事の概要

・各州都で、各州当局者・各州の軍・治安機関・対独戦の従軍経験者・親政権団体・一般市民有志等が数

千人以上参加し、閲兵、行進、記念行事等を実施。

・特に、ポーランドと国境を接する南西部ブレスト市では、BTR シリーズの装輪装甲車、S-300 と見られる対空ミサイルシステム、牽引式の迫撃砲や牽引式の榴弾砲といった装備品の行進や、守備隊や近隣に駐屯する部隊による行進も行われた。

・また、ポーランド国境に近いグロドノ市では、対独戦の時代から戦勝、戦後の復興から現在の発展に至る様子を時系列で展示する行進と、守備隊による行進等の行事が実施された。

(5月9日 国防省、国営ベルタ通信)

●ベラルーシからポーランドへの違法な現金の輸送

・国家国境委員会によれば、2023年初頭から5月11日現在、ベラルーシ・ポーランド国境における違法な現金の持ち出しが75件以上確認されている(総額60万ドル相当)。

・9件の刑事事件が立件され、そのうち6件はウクライナ人が関係している。

・自動車での越境時に、同乗者の荷物や車両の隙間等に現金を分散し、無申告で1万ドル相当以上の現金を持ち出そうとするといった手口が使用されている。

・2月8日、ウクライナ国境警備庁は、ウクライナのロシア軍占領地で盗まれたフリヴニャ現金を、ロシア・ベラルーシ・欧州連合(EU)諸国に持ち出した上で、再度ウクライナに持ち込んで流通させる合法化の事例につき注意喚起している。

(5月11日「ゼルカロ(鏡)」)

●ロシア連邦保安庁(FSB)はベラルーシとの国境で、コカイン492kgを押収

(5月11日 ロシア連邦保安庁)

●2025年までの軍事技術協力に関するプログラムの実施に関するベラルーシ・ロシア二国間協定の批准

・同協定は、2022年9月23日に締結されたもの。

・両国間の装備品及び機材の相互供給、両国軍需産業の共同プロジェクト、装備品・軍用機材・軍民両用品・軍用品の開発と生産等、199事業を規定。

(5月12日 法律ポータル、「ゼルカロ(鏡)」)

●リトアニア当局は、ベラルーシ・ロシアからの現金持込時の虚偽申告に対する罰金を引き上げ

(5月12日「ゼルカロ(鏡)」)

●ポーランド上空で、ベラルーシ領から飛来した観測気球と見られる物体を確認

・ドゥダ・ポーランド大統領は、挑発行為だとして非難。

(5月13日 BPN)

●国防省は、情報防護のための機材を 244 万 1,160 ルーブル(約 90 万ドル)で調達

(5月14日「メディアゾーン」、「ゼルカロ(鏡)」)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(5月8日～5月14日)

・リトアニア国境警備局は少なくとも 60 人を阻止。

・ラトビア国境警備隊は少なくとも 320 人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも 639 人を阻止。

(5月9日～5月15日 BPN)

【経済】

●ゴロフチェンコ首相「制裁はもはや成長を阻害するものではない」

首相は記者団に対し、要旨以下を述べた。

・対ベラルーシ制裁は存在しているが、もはや成長を阻害するものではない。

・物流・見積・商流等の見直しに取り組んできた結果、本年 4 月以降は 2022 年なみの水準に達しており、もはやいかなるショックも感じてはいない。

・独立国家共同体(CIS)諸国との間で確立された接点は、小国ベラルーシが対等かつ互恵的な関係を構築するのに十分。

(5月9日 国営ベルタ通信)

●5月9日、ポーランドの運送事業者が、ベラルーシとの国境検問地点「ククルィキ・コズロヴィチ」を封鎖

・5月13日、ポーランド当局は、このような抗議行動によって人々の生活や健康、交通が阻害されているとして、抗議行動を停止させ、封鎖を解除させた。

(5月9日、13日「ゼルカロ(鏡)」)

●2023 年のカリ肥料輸出の予測、肥料価格の動向

・カナダの鉱物性肥料大手「Nutrien」によれば、2023 年のカリ肥料輸出は、2021 年比でベラルーシからの輸出が▲25%～▲40%、ロシアからの輸出が▲25%～▲35%それぞれ減少の見込み。

・「Nutrien」及び米国の鉱物性肥料大手「Mosaic」によれば、肥料価格は、カリ肥料・窒素肥料ともに 2022 年には高騰したものの、2023 年に入って下落傾向。

(5月11日 Reform.by)

●使用済み核燃料の取り扱いに関するベラルーシ・ロシア二国間協定の批准

・使用済み核燃料は、抽出後 10 年間は「ベラルーシ原子力発電所(BeINPP)」敷地内の使用済燃料貯蔵プールに保存され、その後、ロシアに運ばれて再処理が行われ、プルトニウムとウランが抽出される。ロシアへの最初の搬入は 2032 年を予定。

・抽出されたウランとプルトニウムの管理の条件と手続きは、別の文書にて規定。再処理後のウランとプルトニウムを両国がどのように利用するのかは記載なし。

・再処理後の放射性廃棄物は、ベラルーシに戻されて保管される。

・使用済み核燃料のロシアへの運搬、ロシアでの再処理、ベラルーシへの返送、ベラルーシでの放射性廃棄物の保管の費用は、ベラルーシの国家予算から拠出。ベラルーシ・エネルギー省の試算では、「ベラルーシ原発」の全稼働期間を通じて必要な費用は 25 億ドル～35 億ドル。

(5月11日 法律ポータル、BPN、「ゼルカロ(鏡)」)

●財務省は国内市場で 3,000 万ドルを借り入れ

・額面 1,000 ドルの国債を発行。

・年利 4%。2027 年 3 月 24 日満期。

(5月11日 財務省)

●在外ベラルーシ・ビジネス連盟(ABBA)による、Free Belarus Business Award 授賞式の実施

・同事業は欧州連合(EU)も支援。

・12 か国からベラルーシ発祥の企業 70 社が参加。

・入賞した 5 社に賞状と賞金 5,000 ユーロが授与され

た他、1社が特別賞を受賞。
(5月12日「ゼルカロ(鏡)」)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の動向

(1) 対独戦勝記念日に寄せたメッセージ(5月9日)
・ベラルーシはナチス・ドイツに勝利するために膨大な犠牲を払ったが、ソ連の指導者もルカシェンコも、この戦争から教訓を引き出すことをせず、弾圧を正当化し、さらなる戦争や経済破綻の隠蔽のため、この戦争の記憶を利用している。

・我々ベラルーシ人には、依然、どのような発展の路線が我々にとって身近なのか、選択の余地がある。弾圧・戦争・危機・国際的な戦争犯罪・歴史の書き換えか、それとも自由・欧州経済への統合・生活水準の向上・まっとうな賃金や年金・世界中を自由に旅行できる可能性・文明世界全体から我々の国への投資かを。
(2) ルカシェンコ大統領退任後に政権を担う用意がある旨表明(5月10日)

・仮にルカシェンコが退陣するなら、ベラルーシ全体にとっての祝日となろう。しかしその後に困難な時期がやって来る。別の独裁者やロシアの手先の登場を許すことなく、独立を守ることが大切。

・ルカシェンコが去った後は、交渉を行って改めて選挙を実施し、政治的危機と国内で深まる分裂を解決しなければならない。

(3) 独アーヘンでの、ゼレンスキー・ウクライナ大統領へのカール大帝賞の授与式に出席(5月14日)

・チハノフスカヤ氏はゼレンスキー大統領に対し、受賞の祝意を伝え、握手。

・授賞式には、ヴェロニカ・ツェプカロ氏(ツェプカロ元大統領候補夫人)、タチアナ・ホミチ氏(コレスニコヴァ元ババリコ陣営選挙対策本部長の姉妹)も出席。

(5月8日～14日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

●複数の国の「人々の大使館」運動と人権団体「ヴァスナ(春)」は共同で、スウェーデンにおいて「弾圧に関する手引き」を英語で出版

・本書は、2020年の大統領選挙後にベラルーシを離れた人が、政治亡命や滞在許可を取得するのが困難

である状況を打開するべく、移民当局者や法曹関係者に向け、ベラルーシにおける弾圧の内容や深刻さについての理解を促進するための資料。

・「人々の大使館」運動は、主に欧州各国在住のベラルーシ人が、2020年の大統領選挙を巡る不正に抗議して結成した運動。

(5月11日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【その他】

●ベラルーシで初めて、ゴールデンハー症候群(GS)の重症患者に対し、左部顎関節の再建手術を実施

(5月8日 ベラルーシ卒後医療アカデミー)

●ベラルーシで低侵襲の外科医療が開発される

・共和国外傷学・整形医学学術実践センターは、胸椎、腰椎のけがや病気に対する低侵襲外科医療を開発。

・手術中の出血が少なく、患者の身体への負担が少ないという特徴がある。

(5月8日 保健省)

(了)